

一地域に飛び出す市民国際プラザ

○「持続可能な開発目標(SDGs)を阿南市で考える」に参加しました。

日時:2017年2月5日 場所:徳島県阿南市 阿南ひまわり会館

徳島県阿南市において、「国連生物多様性の10年市民ネットワーク」、阿南市および「SDGs市民社会ネットワーク」などの協力によりSDGs勉強会が開催されました。

これは昨年、香川、愛媛、高知で開催されたSDGs勉強会の集大成として行われたもので、3か所で開催された勉強会の報告や、昨年末に発表された「SDGs実施指針」による国内普及について、また地域の課題とSDGsをどのようにつなげるかを問うディスカッションが行なわれました。

香川では、地域住民の生活基盤を支える地元企業がSDGsに取り組まないことが地域の存続に大きく影響するとし、企業のCSR活動と協働して地域活動を行っています。

また高知の勉強会では、高知の良いところをSDGsによって整理、棚卸しを行ったことでSDGsを自分事として捉えられるとともに、SDGsの中では分類できない地域特有の課題もみえてきたそうです。

SDGsは世界の「共通言語」として企業や自治体に参加しやすく、共通のゴールに向かつて地域活動の活性化に役立つ「ツール」であることがこの勉強会を通して見えてきました。

またこのSDGs勉強会全体を通して、「地域の取り組みにこそ、SDGsとの共通点がある」ことを実感し、期待が膨らみました。

今後の四国地域における、「持続可能な地域づくり」が、日本国内のロールモデルになるかもしれません。



○「わたしたちの方がSDGsより先行している!？」 持続可能な地域づくりの先進地、愛媛県内子町に注目が集まっています。

日時:2017年2月6日 場所:愛媛県内子町役場

内子町は40年にわたり、「町並み、村並み、山並みが美しい、持続的に発展するまち」という将来像を掲げ、自然環境との共生を重視した持続可能な地域作りを行ってきました。

41の自治会があり、町の総合計画は各自治会が策定した「地域づくり計画書」を基礎に、住民一人ひとりが持続可能な町づくりに向けて役割を担っています。

SDGsの策定プロセスに関わってきたセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフが内子町へ移住されたことがきっかけで、昨年の11月に「持続可能な開発目標(SDGs)を内子町で考える」と題する勉強会を開催されました。

この勉強会を通して、内子町が目指す持続可能な地域づくりとSDGsには多くの共通項があることがわかり、更には「内子町はSDGsに先行している」といった意見もあがったそうです。

今後はどのようにしてSDGsを町の施策に反映していくか、部署を超えた横断的な対応や、NPO/NGOなどの異なるステークホルダーとの連携が課題となっています。



○誰一人置き去りにしない社会を目指してー 国際化市民フォーラム in TOKYO

「熊本地震に学ぶ多文化共生とは？」に参加しました！

日時:2017年2月11日 場所:東京ウィメンズプラザ

平成28年4月に発生した熊本地震では、地震を経験したことのない多くの外国人が、土地勘のない異国の地で言葉もわからず、情報にもアクセスできず、大きな不安と恐怖のなかで過ごすことを強いられました。

今回のフォーラムは「**熊本地震に学ぶ**」をテーマに外国人支援の拠点となった熊本市国際交流会館でのさまざまな対応とその振り返りから、今後に向けて必要な情報を理解できる言葉で届ける重要性が改めて問われ、「**やさしいほんご**」や**多言語情報データベース**、また熊本県外の**多様な団体と顔の見えるネットワーク作りが行われた事**などが紹介されました。

報告の中で、外国人被災者の行動として、イスラミックコミュニティから多くの物資が支援されたり、避難所で高齢者を助ける外国人の姿がみられた事も取上げられ、外国人も「支援者」として活躍した話がとても印象的でした。

また、一般財団法人自治体国際化協会(クレア)や、防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)が行った活動の紹介や、発災後、**広域災害を想定した連携の仕組みとして、地域国際化連絡協議会における外国人支援に係る協定**により、**中国・四国ブロックから高知県が熊本の災害支援を行ったこと**なども紹介されました。



○わたしたちが育てるコミュニティファームーさつまいも作りから学ぶ「ESD」ー

日時:2017年2月6日 場所:特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

グローバルネットワークは、環境省より四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)を受託するなど環境保全事業や、「**国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため地球市民教育の普及に取り組むこと**」を目指し、**ESD※1推進のために、さまざまな活動を行っています。**

松山市内にある公園の一部をコミュニティファームとして活用し、**小学生がさつまいも栽培をしながら楽しく環境を学べる場**や、公園を軸とした防災・減災社会づくりの場など、町内会のコミュニケーションの場として使われています。

ESDの学習によって豊かな心を育んできた子ども達が、持続可能な社会をつくる市民として成長し、松山地域の多文化共生社会がますます推進されることが期待されます。

※1.ESD:Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)の略で持続可能な開発を実現するために発想し、行動できる人材を育成する教育



【出展:えひめグローバルネットワークHP】

○第3回「エルトゥール号からの恩返し 日本復興の光大賞17」表彰式に出席

日時:2017年2月27日 場所:明治記念館(主催:NPO法人日本トルコ文化交流会)

1890年9月和歌山県串本町沖でエルトゥール号が沈没し、587人が犠牲となる事故が起きました。生存者はわずか69人でしたが、当時日本全国から義捐金が寄せられ、生存者は日本の軍艦によってトルコまで無事に送り届けられました。トルコ国民は、日本人の厚意に心から感謝し、この出来事は両国友好親善の礎となりました。

NPO法人日本トルコ文化交流会では、東日本大震災の記憶の風化を懸念し、また更なる日本・トルコの友好関係の発展への願いから、今年三回目となる「日本復興の光大賞17」を開催し、復興支援事業への表彰と賞金を譲与しました。

「日本復興の光大賞17」では、『3.11絵本プロジェクト』『石巻専修大学 山崎泰央ゼミナール』『(特活)がんばろう福島、農業者』等が各々特別賞を受賞しました。

大賞を受賞した特定非営利活動法人「TEDIC」は宮城県石巻地区を中心に子どもの貧困対策や不登校対策の一環として、居場所作りや、学習および生活支援を含む幅広い支援を行う等、地域や学校、児童相談所などの各所とも連携した活動が評価されました。

市民国際プラザを広く皆様にご覧いただくために、
市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします♪
現在の市民国際プラザ「いいね！」数 460件



(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

URL <http://www.plaza-clair.jp> E-mail international_cooperation@plaza-clair.jp